

J.LEAGUE NEWS

Official News Letter

vol. **102**

19.Mar.2004



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ

〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目10番15号
JFAハウス9階
TEL.03-3830-2006 FAX.03-3830-2007
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing, J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 **Jリーグ百年構想**

2004 XEROX SUPER CUP



ジュビロ磐田が優勝 2004ゼロックススーパーカップ

今季のJリーグシーズンの幕開けを告げる「2004ゼロックススーパーカップ」が3月6日、東京・国立霞ヶ丘競技場に30,158人の観衆を集めて行われた。今年で11回目の開催となった大会は、2003Jリーグチャンピオンの横浜F・マリノスと、第83回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝のジュビロ磐田が対戦。90分間を終えて1-1の後、PK方式を4-2で制した磐田が、昨年の大会に続く勝利を収めた。2002年(磐田)と2003年(横浜FM)の両ステージ優勝チーム同士、そして昨季の年間1位(横浜FM)と同2位(磐田)という豪華なカードは、新しいシーズンのプロローグにふさわしい熱戦となってスタンドを沸かせた。

CONTENTS

ジュビロ磐田が優勝 2004ゼロックススーパーカップ……………1-2
A3NISSANチャンピオンズカップ2004……………3
2004Jリーグプレスカンファレンス開催 2004年Jリーグの合言葉は、「Amazing, J.」/監督会議を開催/2004年Jリーグ百年構想プロモーション……………4-7
TOPICS 2004年シーズン終了後のJ1、J2入れ替え方法/2004年度(平成16年度)のJリーグ収支予算/2004Jリーグ新人研修会を開催/Jリーグ・アカデミ

ーが医・科学的データ蓄積/「独立開業セミナー」を開催/Jリーグがさわやか福祉財団に寄付/『Jリーグ百年構想サッカー教室』を展開/AEDを設置/「ボカリスエットカップ第3回東京ヴェルディ1969キッズサッカー大会INいなぎ」を後援/Jリーグエンタープライズ、Jリーグフォトの社長に清水泰男氏……………8-9
VOICE 今年のJリーグは何色に染まるのだろうか……………10

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

Nicos

LAWSON

KONAMI

Network Partner

NTT東日本 / NTT西日本

League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

横浜F・マリノスとジュビロ磐田の対戦といえば、昨季の2ndステージ最終節(第15節)において、ロスタイムの逆転ゴールにより横浜FMが劇的な両ステージ制覇を決めた試合が記憶に新しい。そうした因縁のほかにも、日本代表経験者を数多く擁する豪華なラインアップ、過去2シーズンの年間チャンピオン同士、そして今季は国内タイトルだけでなく、ともにAFC(アジアサッカー連盟)チャンピオンズリーグ優勝も狙うなど話題も豊富で、シーズン開幕にふさわしい顔合わせとなった。

前半はともに4本ずつのシュートと、ほぼ互角の展開だが、後半半ばの64分に均衡を破ったのは横浜FM。遠藤彰弘に対する福西崇史のファウルで得たPKを、キャプテンの奥大介が冷静にゴール右隅に決めた。

一方、磐田は中山雅史を投入し、「攻撃のほうに得意」(桑原隆監督)という福西をより前線に近いポジションに上げて反撃に転じる。それが実ったのは85分だった。中盤で相手のパスをインターセプトした鈴木秀人からのパスを受けたグラウが、ゴール前にボールを送ると、走り込んだ福西がGK榎本達也の前で合わせ同点に追いついた。

1-1のまま90分を終えた試合は、大会史

上4回目のPK方式による決着となり、磐田が4-2と制し、2000年、昨年に続く3度目の優勝を飾った。通算優勝回数は、鹿島アントラーズ(1997~99年の3連覇)に並ぶもの。磐田には優勝賞金として3000万円、横浜FMには準優勝賞金として2000万円がそれぞれ授与された。

今季、磐田で3度目の指揮をとることになる桑原監督は「選手たちは昨季、(横浜FMに)やられたイメージが強いので、PK方式とは



© J.LEAGUE PHOTOS

いえ勝てたことは自信になったのでは」と勝利の意義を語り、「流れの中で(得点を)取れた」ことを成果として強調した。

■ Jキッズキャラバンを実施

2004ゼロックススーパーカップが行われた国立霞ヶ丘競技場の代々木入場ゲート付近では、開門からキックオフ時間まで、「Jキッズキャラバン」が開催された。これは、日本型育成システムの確立を目指すJリーグ・アカデミーが、楽しみながら自分の技術を確かめることができる遊びのための機材・遊具を準備し、各地を巡回して実施するもの。会場には、パスゲーム、シュートゲームの2種類が用意され、12歳以下の多くの

子どもたちが楽しみながらも真剣なまなざしで挑戦した。なお、各ゲームの成績上位2名には選手のサインが入った2004Jリーグ公式試合球「ロテイロ」、参加先着300名にはMr.ピッチの携帯ストラップが、それぞれプレゼントされた。



© J.LEAGUE PHOTOS

城南一和(韓国)が優勝、横浜FMは準優勝

A3 NISSANチャンピオンズ カップ 2004

日本・中国・韓国の東アジア3カ国の最強クラブチームを決める「A3 NISSANチャンピオンズカップ2004」は2月22、25、28日の3日間、中国・上海虹口足球场で行われ、昨年のJリーグチャンピオン、横浜F・マリノスは2勝1敗(勝点6)で準優勝になった。優勝は2勝1分け(同7)の城南一和(韓国)で、初のタイトルを獲得した。中国Cリーグ覇者の上海申花は2分け1敗(同2)で3位、上海国際は1分け2敗(同1)で最下位だった。



© J.LEAGUE PHOTOS

昨年Jリーグチャンピオンの横浜F・マリノスは、けが人やU-23日本代表で中軸選手が抜かれ、またAFCチャンピオンズリーグなどの日程上の問題で厳しい状況での出場となった。

第1戦(22日)の城南一和戦ではそんな不安が出たのか、後半守備陣の乱れを突かれて3失点。攻撃で期待された久保竜彦、安貞桓のコンビも不発で、0-3で完敗、苦しいスタートとなった。

しかし、第2戦(25日)の上海申花戦では、前半こそ無得点だったが、後半の54分に安永聡太郎が先制ゴールを奪い、さらに85分には栗原勇蔵が追加点を決めて、2-0で快勝。やっと横浜FMらしいプレーが戻ってきた。

上海国際との最終戦(28日)は、ほぼベストに近いメンバーで臨んだ。23分にDF陣の連係ミスから上海国際に先手を取られる展開となったが、後半に入ると久保、安らが本来の持ち味を発揮して相手ゴールに迫り、55分に右セントリングを久保が頭で落とし、松田直樹がけり込んで同点。さらに60分には右サイドからの安のセントリングを久保が決めて、見事2-1で逆転勝ちした。

第1戦で横浜FMを破った城南一和には勝点1差及ばなかったが、横浜FMはジェフ市原から移籍したDF中西永輔や清水エスパルスから獲得した安が実力を見せ、若手の大橋正博、栗原らも力をつけてムードは盛り上がっている。



© J.LEAGUE PHOTOS

順位	チーム	城南一和	横浜FM	上海申花	上海国際	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失差
1	城南一和	—	3-0	1-1	1-0	7	2	1	0	5	1	4
2	横浜F・マリノス	0-3	—	2-0	2-1	6	2	0	1	4	4	0
3	上海申花	1-1	0-2	—	1-1	2	0	2	1	2	4	-2
4	上海国際	0-1	1-2	1-1	—	1	0	1	2	2	4	-2

日本人学校でサッカー教室を実施

横浜F・マリノスの岡田武史監督、コーチ、選手らが2月26日、A3 NISSANチャンピオンズカップ2004の合間をぬって上海市内にある日本人学校を訪れ、サッカー教室を行った。横浜FMが底辺の拡大を目的に行っている「ふれあいサッカープロジェクト」の一環として行われたもの。

この日参加した児童・生徒は約1,300人。岡田監督をはじめ、ハーフナー・ディドGKコーチ、阿部祐大朗、金子勇樹選手らがシュートやボールリフティングを披露。また、全員

が参加したブラジル体操ではうまくリズムに乗れない子どもたちもいたが、それがかえって楽しさを醸し、グラウンドには子どもたちや保護者らの明るい歓声が響いていた。



© J.LEAGUE PHOTOS

2004Jリーグプレスカンファレンス開催



© J.LEAGUE PHOTOS

Amazing, J.

J.LEAGUE

Jリーグは3月5日、東京都内のホテルでメディア関係者、スポンサー・サプライヤー関係者など約500人を招待し「2004プレスカンファレンス」を開催した。

1部では、ジョン・カビラ氏とゼッターランド・



© J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ百年構想などの活動計画を紹介、またJクラブの全監督の紹介とともに2004年度のクラブスローガンや今シーズンにかかる意気込みなどを発表した。

鈴木昌チェアマンは「今年には大幅な補強をしているクラブが多く、また大物外国籍選手の移籍などもあってし烈な優勝争いが展開するだろう。チームと観客が一体となったスタジアムの熱気を大勢のファンに体感してほしい」とあいさつした。また、Jリーグでプレーし人

ヨーコさんをナビゲーターに、今年の合言葉「Amazing, J.」の発表やJリーグの見どころ、

気を博したブッフバルト氏、ハシゲック氏が監督として復帰したことへの期待、J2に対する思い、今季最後の2ステージ制などについて語った。

Jリーグ百年構想のプレゼンテーションではMr.ピッチも登場し、新しく制作したプロモーション映像を披露した。この映像は期間ごとに趣向を変え、試合会場の大型映像などで紹介していく。



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE-PHOTOS

ナビゲーターのジョン・カピラ氏とゼッターランド・ヨーコさんの質問に答える鈴木昌チェアマン

■ 監督へのアンケート

昨年から実施している、アナライザーシステムを使った監督アンケートは、全6問。

「2004年開幕に向けての調整はイメージ通りだ」の問いにYesと答えた監督は15人、「補強には100%満足している」が11人、「今の時代に現役選手で良かった」が11人。J2の監督に聞いた、「今シーズン、3位まで昇格の可能性が広がり、“ラッキー”だと思う」の質問には8人、J1の監督への質問「自動降格がなくなり、ホッとしている」は6人だった。また、「U-23日本代表の平山相太選手をぜひ、獲得したい」に答えた監督は14人。この質問にYes

と答えたガンバ大阪の西野朗監督は「監督の志向にもよるが、彼はトータルで優れた選手。Jリーグの監督も評価していると思う。私も好きな選手」と絶賛した。最後の質問の「3月13日の開幕が待ち遠しい」にYesと答えた監督は、17人だった。

元ドイツ代表として活躍し、Jリーグでも浦和レッズでプレーしたブッフバルト監督は「長い準備期間が終わった。途中、U-23日本代表選手が抜けて厳しかったが、苦しい練習を続けてきたので開幕戦を楽しみにしている」と語った。



© J.LEAGUE PHOTOS

鹿島アントラーズ:トニーニョ・セレーゾ監督



© J.LEAGUE PHOTOS

浦和レッズ:ブッフバルト監督



© J.LEAGUE PHOTOS

サガン鳥栖:松本育夫監督

「選手たちの協力もあり、昨年のチームから完全に脱皮した。totoでは、頭を痛めるチームになるだろう。期待してほしい」



© J.LEAGUE PHOTOS

アルビレックス新潟:反町康治監督

「われわれのチームはJ1の新入生。いじめられないようにしないと……(笑)。初戦は、FC東京の胸を借りるつもりで頑張る」



© J.LEAGUE PHOTOS

ヴィッセル神戸:ハシェック監督

2004 シーズン開幕

■ 2004年Jリーグの合言葉は、「Amazing,J.」

これまでJリーグは「Join!」の合言葉とともに、スタジアムに集うファン・サポーター、ホームタウンの人々とサッカー・スポーツを通じたコミュニケーションの輪を広げてきたが、Jリーグは、次の時代に向けた新しいスタートとして、サッカーの持つ「喜び」「驚き」「感動」を伝えるべく、合言葉に「Amazing,J.」を掲げてJリーグのプロモーションを展開していく。

ファン・サポーターの声援に沸くスタジアムの熱気、選手と観客が一体となる鼓動、プロ

Amazing,J.



ならではの卓越したプレーに対する驚きと感動、そして、多くの仲間と勝利の喜びを分かち合う素晴らしさ——。Jリーグは、Jリーグの魅力、サッカーの素晴らしさを「Amazing,J.」の言葉に込め、多くの人々とその感動を共にし、また、その素晴らしさをまだ体験していない人に伝えていく。

Amazing：「驚くべき」「素晴らしい」「驚異的な」の意味。「It's amazing!」は、「すごい!」という、感嘆の意を表す。



「Amazing,J.」のポスター

■ フェアプレーを推進

Jリーグは、2004年シーズンに向け、引き続きフェアプレーを訴えていく。

Jリーグが日本サッカーのトップレベルとして魅力的なリーグになるために「フェアプレー」は欠かすことができない。「スポーツマンシップ」とは、相手を、審判を、そしてルールを尊重し、フェアに、そして真摯(しんし)に戦うこと。Jリーグは、子どもたちの憧れの存在であるJリーグの選手に対し、その模範となるべく、アグレッシブでひたむきなプレーを要請、また指導者に対しても徹底してフェアプレーを伝授するよう通達し、スポーツマンシップに溢れたすがすがしい試合と感動を呼ぶプレーを推進していく。



■ 監督会議を開催

プレスカンファレンス当日、2004年度の監督会議が開催された。日本サッカー協会川淵三郎キャプテンが「代表チームへの選手派遣等、各クラブの協力に対して感謝している。Jリーグは日本代表の強化に欠くことはできない存在であり、今後も協力をお願いしたい」とあいさつし、鈴木昌チェアマンは「Jリーグは子どもたちの憧れであり、またそういう子どもたちの指導者にとっても手本となるもの。日本サッカーの発展のためにも素晴らしい指導をお願いしたい」と述べた。

今回の監督会議では、有望な選手がJリーグでハイレベルな経験をできるように特別指定選手の手続きをスムーズにすること、サテライトの日程変更にもっと柔軟に対応することなどが確認された。また、選手が倒れた際、すぐにピッチ外にボールを出すことがフェアプレーか否かという疑問に対し、「できるだけプレーを続けるほうがフェアだ」という意見が多かったことから、重大な場合以外はできるだけプレーを続行するという申し合わせがなされた。

■ 世界で一番、幸せなスタジアムをつくらうよ。

～Jリーグ28クラブ共通「観戦マナー」を呼びかけ～

スタジアムでの試合観戦をより安全に、快適なものにするために、Jリーグは今年も「観戦マナー&ルール」を掲げ、多くのファン・サポーターに理解と協力を呼びかける。

この啓蒙活動は例年通り、「花火、爆竹、発煙筒、ガスホーンの持ち込み」「ビン・カン類の持ち込み」「フィールドへのモノの投げ込み」「フィールドへの飛び降り」という4つの禁止事項を“ピクトグラム”(イラストによる標識)に表し、スタジアムの電光掲示板・大型映像、Jリーグ・Jクラブ広報誌などを通じてファン・サポーターに訴求していく。



© J.LEAGUE PHOTOS

J1、J2クラブ全監督が集まった毎年恒例の監督会議

2004年Jリーグ百年構想プロモーション

～Mr.ピッチ、今年もがんばります！～

Jリーグは「Mr.ピッチ」をキャラクターに、「Jリーグ百年構想」を分かりやすく、親しみやすく伝えてきたが、今年もMr.ピッチはさらにパワーアップしてスポーツ文化の醸成、芝生のグラウンドの拡大に向けてさまざまな活動を行っていく。プロモーション展開は、ポスターや雑誌広告をはじめ、Jリーグ・Jクラブの広報誌、試合会場での大型映像などで、Mr.ピッチがJリーグの理念実現に向けて努力する姿を楽しく紹介するほか、3月1日からJリーグ公認ファンサイト「J's Goal」に新設された「Mr.ピッチ公式サイト」で子どもにも分かりやすくJリーグの理念を伝えていく。

さらに、年間を通じて、芝生の校庭を持

つ学校を対象にした『Jリーグ百年構想サッカー教室』を展開。これは、Jリーグの理念である「芝生のグラウンド拡大」を推進するための活動で、Jリーグは、この活動を展開することで芝生のグラウンドの素晴らしさを紹介するとともに、一つでも多くの芝生の広場やグラウンドが増えるものと考えている。

■Mr.ピッチを使ったプロモーション

●掲載媒体

・Mr.ピッチのポスター掲載(クラブハウス、スタジアムなど)

・プロモーションビデオ(スタジアム

Mr.ピッチ、じっとしてられず。

見たい、聞きたい、触りたい。
それ以外のスポーツへの思いも、
実情のいい声に届く。
みんなが笑顔でグラウンドを走る。
みんなが笑顔で走り出す。
そのために。
歩いていく道。
できることから、無理なく。
いてもらっていいから。
夢を届かせること。
みんなが笑顔で。
Mr.ピッチの夢です。



スポーツでもっと幸せな国へ。
Jリーグ百年構想とは、みんなの思い、夢の達成に合わせた広場やスポーツ施設をつくること。Jリーグに携わらず、あなたがやりたいことを実現するスポーツクラブをつくること。Jリーグの「夢」を「夢」にする。スポーツを通して世代を超えた絆を築くこと。
Jリーグ百年構想のロゴマークは、Jリーグの「夢」を「夢」にする。スポーツを通して世代を超えた絆を築くこと。
Jリーグ百年構想のロゴマークは、Jリーグの「夢」を「夢」にする。スポーツを通して世代を超えた絆を築くこと。

スポンサー: GULBEE CARBON SUNTORY JOMO Nissai LAWSON KONAMI

●Mr.ピッチからのメッセージ

「Jリーグ百年構想」のメッセンジャー、Mr.ピッチ。

グリーンのおおわれた、その全身から伝えたいことは、ひとつです。

あなたの町にも、あなたが好きなスポーツを心ゆくまで楽しめる芝生のグラウンドをつくること。

この一年、日本中のたくさんの場所で、たくさんの皆さんに会って、このグリーンな思いをお伝えしてきました。

サッカーだけではなく、いろんなスポーツを楽しみたい。

プレーするだけではなく、観戦したり、応援したり、スポーツに関わるさまざまな活動をした。そんな皆さんの夢をかなえることが、Jリーグの、そしてMr.ピッチの夢だからです。

これからも、緑のメッセージを発信しつづけます。

あなたが、そしてこの国が、スポーツで、もっと、幸せになる日まで!

2004Jリーグ百年構想ポスター

大型映像等でのVTR放映)

- ・スポーツ誌等の雑誌広告
- ・「Mr.ピッチ公式サイト」(Jリーグ公認ファンサイト「J's Goal」)の開設
- ・Jリーグ、Jクラブ広報誌等での掲載
- Mr.ピッチの参加イベント等
- ・Jリーグ百年構想サッカー教室
- ・Jリーグ戦
- ・Jクラブが実施する地域スポーツ振興活動、スポンサーとの活動など

Jリーグ公認ファンサイト「J's Goal」に『Mr.ピッチ公式サイト』を開設!

Jリーグは、2004年3月1日から、Jリーグ公認ファンサイト「J's Goal」に、『Mr.ピッチ公式サイト』を開設した。

■サイト名

Mr.ピッチ公式サイト
(URL: <http://www.jsgoal.jp/mrpitch/>)

■内容

①Mr.ピッチTV

ブロードバンド環境で、Mr.ピッチが参加したイベントやプロモーションビデオなど、さまざまな映像を公開

②イベントリリース

Mr.ピッチが登場するイベントの情報コーナー。また登場したイベントのリポートも掲載

③イラストギャラリー

Jリーグ百年構想イメージイラストの応募作品をランダムに紹介

④キャラクターメッセージ

毎回Mr.ピッチが3Dで登場し、「Mr.ピッチ、今日の一言」を紹介

⑤ダウンロード

スクリーンセーバーや壁紙等、ダウンロードして毎日デスクトップ上で楽しめるソフトを提供

⑥グリーティングカード

あの人へ、メールを…。Mr.ピッチ使用のグリーティングカードサービスを展開

⑦メッセージ受付

「Jリーグ百年構想とMr.ピッチ」、「芝のフィ



ールドとスポーツの思い出」といったテーマでメッセージを募集。週一回ほどの更新で、利用者からのメッセージを公開

⑧Mr.ピッチグッズ

Mr.ピッチグッズを紹介するコーナー。新作も続々と登場

2004年シーズン終了後の J1、J2入れ替え方法

Jリーグは2月17日に開催した理事会で、2005年シーズンからJ1を18クラブにすることに伴う、2004年シーズン終了後のJ1、J2入れ替え方法について審議し、下記の通りとすることを決定した。

■入れ替え方法

- 2004年J2における年間順位1～2位のクラブは、J1に昇格
- 2004年J1における年間順位16位のクラブとJ2における同3位のクラブが入れ替え戦を実施

■入れ替え戦 試合実施概要

- 1.入れ替え戦はホーム&アウェイ方式で2試合を行い、第1戦をJ2クラブのホームゲーム、第2戦をJ1クラブのホームゲームとする
- 2.入れ替え戦の開催日
第1戦：12月4日(土)
第2戦：12月12日(日)
- 3.入れ替え戦に勝利したチームは、2005年J1リーグに所属することとなる。試合の勝

敗の決定方法は、次の通り

- (1)90分間(前後半45分)の試合を行う
- (2)2試合が終了した時点で、勝利数が多いチームを勝者とする
- (3)2試合が終了した時点で、勝利数が同数の場合には、次の順序により勝者を決定する
 - ①2試合における得失点差
 - ②2試合目終了時に30分間(前後半15分)を限度として行うVゴール方式の延長戦
 - ③PK方式(各チーム5人ずつ、決着しない場合は、6人目以降は1人ずつで、勝敗が決定するまで)
 - ④延長戦に出場する者は、2試合目終了時にピッチでプレーしていた選手とする。ただし、2試合目とあわせて最大3人までの交代を行うことができる
 - ⑤PK方式に参加できる者は、延長戦終了時にピッチでプレーしていた選手のみとする。ただし、GKについては、負傷によりプレー続行不可能で、かつ延長戦終了までに選手交代が3人に達していない場合に限り、残りの

交代要員と交代することができる

4.出場資格を得るための登録期限は次の通り

- (1)J1クラブにおいては、2004年10月29日までにJFA登録を完了し、かつJ1リーグ戦2ndステージ出場のためのJリーグ登録を完了した選手のみが入れ替え戦への出場資格を持つ
- (2)J2クラブにおいては、2004年9月17日までにJFA登録を完了し、かつJ2リーグ戦出場のためのJリーグ登録を完了した選手のみが入れ替え戦への出場資格を持つ

5.入れ替え戦に出場するJ2クラブは、J1クラブの資格要件を満たしていなければならず、2004年10月に開催される理事会までに、J1クラブの資格要件を満たしている旨を理事会にて承認されなければならない

6.J2クラブが、J1クラブの資格要件を満たしていない場合は、入れ替え戦は実施されず、J1の16位のクラブがJ1に残留する

7.入れ替え戦の実施に関する詳細については、Jリーグ試合実施要項に準じ、別途実施要項を定めることとする

2004年度(平成16年度)の Jリーグ収支予算

2004年度のJリーグ収支予算

(百万円)

	2004年度予算	2003年度予算	2002年度実績
【収入の部】			
1.入会金・会費	880	880	940
2.放送権料	5,000	5,000	4,815
3.協賛金	3,564	3,636	3,521
4.商品化権料	554	554	697
5.Jリーグ主管試合入場料	230	207	505
6.その他	417	478	670
収入合計	10,645	10,755	11,148
【支出の部】			
1.事業費			
クラブへの配分金	6,390	6,457	7,223
その他	2,574	2,509	2,618
2.管理費	1,564	1,674	1,279
3.その他	117	114	29
支出合計	10,645	10,755	11,148

2月17日に開催した理事会・総会で、2004年度(平成16年度)のJリーグ収支予算が承認された。

2004Jリーグ新人研修会を開催

Jリーグは、今年加入する新卒選手を対象に、2月4日～6日の3日間、Jリーグ選手協会と共催で『2004Jリーグ新人研修会』を開催した。講義は、①Jリーグについて②メンタルマネジメント③Jリーグ選手協会・Jリーグキャリアサポートセンターについて④選手契約制度について⑤税務と資産管理⑥危機管理⑦プロ選手の心構え⑧totoについて⑨メディア対応(テレビ・新聞・雑誌)⑩健康管理⑪ファン・サポーター⑫ルールとフェアプレーについて、など盛りだくさんの内容となった。今回出席した新人選手は114人。



© J.LEAGUE PHOTOS

※四捨五入

Jリーグ・アカデミーが 医・科学的データ蓄積 ～湯島幼稚園で園児の 足底圧測定を実施～

Jリーグ・アカデミーは活動の一環として「医・科学的データの蓄積と活用」をテーマに、各地の幼児・児童の協力を得てデータ収集を行っている。2003年度は既に、5歳から12歳の子ども80人の足底圧測定を行ったが、2月26日には、東京慈恵医科大学スポーツクリニックの白石稔医師、測定器メーカーの(株)モンテシステムの田中章雅氏、東京大学大学院生らの協力を得て、JFAハウス隣の文京区立湯島幼稚園(園長:鳩山多加子)の年長の園児(5～6歳)20人を対象に同測定を実施した。

足底圧測定は、足の重心の位置・土踏まずの有無・歩く時の重心の抜け方などを調べるもので、このデータによって運動不足や体のゆがみなどが調査できる。Jリーグ・アカデミーでは、データを収集して骨格や体づくりなど、子どもたちの健全な育成のために活用するとともに、この活動によって保護者に対しても、子どもにとって屋外での遊びや運動がいかに大切かを啓蒙したいと考えている。

なお、Jリーグ・アカデミーは今後、食生活についてのアンケートも実施し、運動と食事両面での情報収集を行っていく。



© J.LEAGUE PHOTOS
重心を測定している様子

「独立開業セミナー」を開催

Jリーグキャリアサポートセンター(CSC)は2月19日、「独立開業セミナー」を実施した。「引退したら自営業を」「今は就職するが、いずれは独立」といった選手の声から企画されたもので、第1回となる今回は、(株)ネクスト・ソリューション代表取締役の石井諭氏が「独立開業」の勤務・ノウハウについて講演。その後、「起ちあがれニッポンDREAM GATE」の編集長・野村滋氏をコーディネーターに、浅野哲也(サッカー解説者)、伊藤和磨(フィジカルコーディネーター)、内藤潤(フットサル場・レストラン経営)、皆本勝弘(レストラン経営)、山口敏弘(カラオケバー経営)の各氏によるパネルディスカッションが行われた。



© J.LEAGUE PHOTOS
「独立開業セミナー」のパネルディスカッション

Jリーグがさわやか福祉財団に 寄付

Jリーグは毎年、(財)さわやか福祉財団に対し、寄付金として約1,000万円、日本信販(株)の協力によるJリーグNICOSカードの利用金額の一部約1,000万円、合計約2,000万円を寄付しているが、3月2日、東京都内のホテルでその授与式が行われ、鈴木昌チェアマンが堀田力さわやか福祉財団理事長に寄付金を贈呈した。その後、鈴木チェアマンは、集まったボランティアの人たちに対し、Jリーグ百年構想のスローガンのもとに行っている地域スポーツ振興などについてスピーチした。



© J.LEAGUE PHOTOS
さわやか福祉財団の堀田力理事長(右)と鈴木昌チェアマン

「Jリーグ百年構想サッカー教室」 ～第1弾は、杉並区立和泉小学校で～

Jリーグは今年、「Jリーグ百年構想」活動の一環として、芝生の校庭を持つ全国の小学校を対象に『Jリーグ百年構想サッカー教室』を開催するが、この活動の第1弾として、3月10日、東京・杉並区立和泉小学校(野崎佳子校長)の児童を対象としたサッカー教室を開催した。(詳細は103号に掲載予定)

- 主催 (社)日本プロサッカーリーグ
- 共催 朝日新聞社(Jリーグ百年構想パートナー)
- 協力 株式会社モルテン
- 講師 井原正巳、アシスタントコーチ

AEDを設置

Jリーグは、2004年シーズンから、Jリーグの試合等にAED(自動体外式除細動器)を設置する。AEDは、突然死の原因となる「心室細動」の唯一の蘇生手段である医療器具。JリーグではPHILIPS社の「ハートスタートFR2」を使用する。病院や航空機内にも設置されているもので、救急医療体制の充実の一環として各クラブが試合会場や練習などに携帯して選手や観客の万が一の場合に備える。

「ポカリスエットカップ 第3回東京ヴェルディ1969 キッズサッカー大会INいなぎ」 を後援

Jリーグは2月17日に開催した理事会で、(株)日本テレビフットボールクラブと東京ヴェルディ1969キッズサッカー大会INいなぎ運営委員会が主催する「ポカリスエットカップ 第3回東京ヴェルディ1969 キッズサッカー大会INいなぎ」を後援することを決定した。同大会は2月21日、東京ヴェルディグラウンドで開催された。

Jリーグエンタープライズ、 Jリーグフォトの社長に清水泰男氏

清水泰男氏が、2月10日付で(株)ジェイリーグエンタープライズの代表取締役社長に、2月25日付でジェイリーグフォト(株)の代表取締役社長に就任した。

今年のJリーグは何色に染まるのだろう

日刊スポーツ新聞社 ◎ 田 誠 (でん まこと)

今シーズンは何色に染まるのだろう。そんな思いを巡らせながら、Jリーグの開幕を迎えた。

思えば昨シーズンは「青の時代」だった。

岡田監督が就任した横浜F・マリノスを担当したせい、ブルーの戦闘服をまとった選手が躍動するシーンばかりが強烈な印象として残っている。久保がロスタイムに水しぶきを上げながら頭で決勝ゴールを決め、劇的な逆転優勝を遂げた2ndステージ最終節の磐田戦の記憶はまだ鮮明に残っている。あの日、横浜国際総合競技場は雨だった。ブルーに染まったスタンドは小雨で視界がさげられるほどの悪条件だったが、ドラマティックな幕切れは興奮というよりも、爽快な感じがした。

ジーコジャパンもしかり。サポーターで埋まるスタンドは青一色になる。大合唱でも始めれば、押し寄せる波のごとく圧巻な空気さえ漂う。

だが「見る側」として体の芯から熱くなるものを感じない時もあった。なぜだろうか。色彩からくるイメージなのか。今季の開幕で激突した横浜FMvs浦和戦。以前に「青と赤のコントラストが与えるイメージ」といった拙文を綴ったことがある。ユニホーム(チームカラー)の色がもたらす心理的要因は意外にあるんじゃないかと思うことがある。

色彩心理学の区分の1つに暖色と寒色、そして中性色という分け方がある。

暖色(赤や橙、黄色)は太陽や火を連想させ、浦和や名古屋、鹿島、新潟、柏などが相当する。寒色(青や水色)は水や空のイメージで横浜FMや磐田、FC東京あたりか。色の違いだけで、心理的な温度差を及ぼすデータがある。暖色と寒色では実



に3度もの差があるらしい。スタジアムが何色に染まるかによって、体感温度に差が出てもおかしくないようだ。確かにJリーグぎっけの観客動員力を誇るレッズやアントラズ、アルビレックスのサポーターは「熱い」という形容詞があてはまる。

興奮色と沈静色という分け方もある。

前者は赤やピンクが該当する。闘牛士が挑発に使う赤い布が好例だ。セレッソ大阪のFW大久保がエキサイトする姿に桜色のユニホームが見事に重なるのも、こんな理由にあるかもしれない。Jリーグでは猪突猛進型のプレー像に映るのが、ひとたびユ

PROFILE



1963年大阪生まれ。野球記者としてプロ野球、高校野球、大リーグ、シドニーオリンピックも取材。サッカー取材班に移籍後は横浜FM、日本代表、日本サッカー協会、Jリーグを担当。

ニホームが青に変わることで、日本代表での大久保は活力を失った選手のように見えてしまう。実績だけじゃないのかもしれない。青には沈静作用があるからだ。

だからというわけじゃないが、ジーコ監督は日本代表のユニホームの襟元に赤いラインが入ったことを歓迎した。燃えたる血や闘争心を喚起するカラー。戦術重視のトルシエ時代の日本代表には知的な「青」が似合っていたが、選手個々にスキルアップと闘う姿勢を求め、ピッチを戦場に置き換えるジーコジャパンに「赤」が欠かせないのは、よく分かる。

もちろん敵の色を視覚的にとらえた時に起きる生理作用も看過できない。人の眼は赤色を見れば、心拍数が上がりアドレナリンの分泌も促進される。興奮しない方がおかしいわけだ。元日本代表DF秋田ら大型補強に成功した名古屋、日本代表(A、U-23)がずらりと顔をそろえるタレント集団の浦和、新生鹿島などが快進撃すれば、強烈な視覚的イメージからくる「赤の旋風」は容易に予測できる。かつてない色もある。イルハン加入の神戸がスタートダッシュを切れば「黒」の色彩が持つ、重量感あふれるイメージが日本サッカー界に新たに植えつけられる。

12年目を迎えたJリーグ。2ステージ制も今季で幕を閉じ、05年から欧州スタイルの1シーズン制へ移行する。最後のチャンピオンシップに出場するのはどのチームか。「赤VS赤」なのか「青VS水色」なのか。オリンピックとワールドカップ予選に負けぬ、Jリーグが放つ強烈な光線をサポーターは待っているはずだ。今年のサッカー界は何色に染まるのだろうか。



totoオフィシャルサイト <http://www.toto-dream.com>

発売:独立行政法人日本スポーツ振興センター 受託:りそな銀行 販売・払戻の運営:日本スポーツ振興くじ(株)

18 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。



写真提供:◎J.LEAGUE PHOTOS

「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。